



「宝島」の動画作りで、振り付きで楽しく演奏する市立尼崎高校の吹奏楽部員たち。コロナ対策で部員同士の距離をとった。同部提供

総文 動画でもノリノリ♪

第44回全国高校総合文化祭「2020こうち総文」の吹奏楽部門に、県代表で尼崎市立尼崎高校吹奏楽部が動画で参加した。今年の総文は高知県での開催だが、コロナ禍でインターネットを活用しての開催となった。市立尼崎の動画は、「WEB SO U B U N 特設サイト」(<https://www.websonbun.com/>)の吹奏楽部門のページで公開されている。

市立尼崎高吹奏楽部が参加

今年が高知へ行つての演奏が出来なくなり、市立尼崎は、昨年の定期演奏会の動画から抜粋した映像で参加し、すでに吹奏楽部門のページでアップされた。

「銀河鉄道999」や「シング・シング・シング」などの演奏を元氣よく繰り広げ、「ハイサイおじさん」も披露している。市立尼崎は毎年、甲子園で高校野球の沖縄代表校の応援演奏を担うが、「ハイサイおじさん」は甲子園で演奏する「十八番」の曲だ。

また、吹奏楽部門では、各代表団体に合奏曲「宝島」を演奏する様子を撮影してもらい、それらの動画をつなぎ合わせて編集した作品を完成させ、31日から

吹奏楽部門のページで公開予定。

市立尼崎では7月下旬に「宝島」の動画を撮影した。感染予防で、部員同士の横と前後の間隔を広げた。隣の部員の音がいつもより小さく、自分の音が大きく聞こえて、部員らは慣れない感じに少し戸惑ったが、ノリノリで演奏した。

部長の清水萌奈さん(3年)は「自分たちが楽しんで演奏することで、カメラの向こうのお客さんも楽しくなって頂ければ」、副部长の玉城秀太さん(3年)は「楽しく見て頂くために、パートや全体での振り付けを工夫して考えました」と話していた。

(村瀬成幸)